

# 英語科学習指導案

日 時 平成 22 年 10 月 28 日(木) 5 校時

場 所 2 年 1 組教室

学 級 2 年 1 組 (男子 15 名女子 22 名計 37 名)

指導者 教諭 高橋 健一

## 1 単元名 Unit5 A Park or a Parking Area ?

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元は駅付近の歩道上に駐輪されている自転車が転倒したことによって腕を折ってしまった事故をきっかけに起きた「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論を題材として扱っている。Starting Out では妹が怪我をして入院したので一緒に見舞いに来てほしいという内容のファックスを取り上げ、次項の問題の発端となる出来事に触れている。Dialog では女の子と事故の原因をめぐるマイクとエミの対話を通して「駐輪場が必要だ」という意見にたどり着く様子を描いている。Reading for Communication 「記事を書こう」(p.52)では「公園をつぶして駐輪場にする」という市の決定とそれに対して反対意見が出ていることを掲載した新聞記事である。さらに、新聞のコラムとして Reading for Communication 「意見を述べよう」(p.53)では市の決定に対する反対意見につながっている。

この問題は都市部では身近な「社会問題」であり、住居環境の「公園」をとるか、安全のための「駐輪場」をとるかというディレンマを含み、議論の賛否が分かれやすい課題である。「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論を題材に触れながら、生徒にもひとつの議題に対して、理由と結論を備えた考え方に触れさせ、さらには、自分たちに身近な問題について、自分の考えを説明する態度と力をつけてほしい。

文法事項としては従属接続詞の if, when, because や think などの動詞の目的語になる that 節を扱う。これらの言語材料は自分の意見を述べる上で、筋道だった論理を説明するのに非常に有用である。これまで学習した節を伴わない文から、節を伴った文になることへの抵抗が考えられるが、これまでの習ってきた文を土台として、if, when, because, that のそれぞれの意味や用法を理解させ、論理的に説明したり、または相手の説明する論理を理解できるよう、興味を持って考えたり聞いたりできる話題の選択に留意し、ペア活動やグループ活動を行い、協同的な関わりの中で学ばせ、定着を図りたい。

#### (2) 生徒について

生徒は、新しく習得した英語を使い表現し、活動する意欲が高く、コミュニケーションを図ろうとする姿勢、態度が身についてきている。しかしながら、これまで英語学習に取り組み、さまざまな表現を学習してきた一方で、一つひとつの表現の文法の混同が見られ、その意味で英語学習に苦手意識を持つ生徒もいるため、複文への抵抗が考えられる。また、書くことについても、いまだローマ字表記から抜け出せない生徒もいるので反復の練習が必要である。

また、日常の記録ノートや毎朝の 30 秒スピーチでも単文(重文)でしか説明できない生徒も多く、英語を書く以前に、条件や理由など論理的な思考を学習させる必要がある。

(3) 指導に当たって

本校研究主題『『確かな学力』を育む授業の創造』に迫るために、英語科では基礎・基本を定着させるコミュニケーション活動の工夫が重要と考えている。ウォームアップで既習の文の確認をペアで復習し、本単元の複文への抵抗を少しでも減らしたい。また、実際に生徒に言語活動をさせる際に、教科書の「公園を維持するか駐輪場にするか」という都市部特有の議題から離れて、学校内での身近な話題を設定して、意欲的に自分の考えを英語で説明できるよう工夫したい。その議題を与えるために事前にアンケートをとり、議論が分かれそうな議題を選出した。また、その活動では「聞く・読む・話す・書く」の4技能をバランスよく取り入れ指導していきたい。

3 単元の目標

- (1) 議題に対して積極的に自分の考えを持ち、他者の意見を理解しようとする。  
【関心・意欲・態度】
- (2) if 節、that 節(目的)、when 節、because 節を用いて自分の意見や気持ちなどについて話し、書くことができる  
【表現】
- (3) if 節、that 節(目的)、when 節、because 節を用いた文を聞いたり読んだりして内容を理解する。  
【理解】
- (4) if 節、that 節(目的)、when 節、because 節を用いた文の形・意味・用法を理解する。  
【言語や文化についての知識・理解】

4 指導計画 (Unit5 A Park or a Parking Area? : 9時間扱い 本時4/9)

単元	時数	学習内容	評価規準			
			コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識理解
Unit 3	2	・if 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。 ・与えられた話題について if 節を用いて自分の言いたいことを言ったり、相手の文を理解する。	既習の文を土台に積極的に If 節の文を読み取ったり、文を作ったりする。	与えられた話題について if 節を用いて自分の考えを言うことができる。	簡単な if 節の文を聞いたり読んだりして内容を理解できる。	新出の複文のイメージを捉え、if 節の文の構造や意味を理解し、適切な英語に直している。
	2	・that 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、それをを用いて自分の考えを表現する。 ・与えられた話題について that 節を用いた相手の文を理解し、英語で書き取る。本文の内容を理解し音読をする (本時)	積極的に自分の考えを述べ、相手の話を聞き取ろうとしている。	与えられた話題について that 節を用いて自分の考えを述べ、理由になる文を考えて書く。	簡単な that 節の文を聞いたり読んだりして内容を理解できる。本文の内容を理解し音読をする。	that 節の構造や意味を理解し適切な英語に直している。that の省略があることを理解する。
	2	・when 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。 ・新聞記事を読んで内容を理解する。	when 節を用いて積極的に文を理解し、表現しようとしている。記事を積極的に読んでいる。	when 節を用いて与えられた話題について自分のことを述べる。	when 節の文を含んだ新聞記事を読んで内容を理解できる。	when 節の構造や意味を理解し適切な英語に直している。

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。</li> <li>・投書の意見を読んで内容を理解する。</li> </ul>	because 節を用いて積極的に文を理解し、表現しようとする。記事を積極的に読もうとする。	because 節を用いて与えられた話題について自分の意見を述べる。	because 節の文を含んだ投書を読んで内容を理解できる。	because 節の構造や意味を理解し適切な英語に直している。
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のまとめ</li> </ul>	それぞれの接続詞を積極的に理解し、表現しようとする。	それぞれの接続詞を使って正しい英文を作ることができる。	それぞれの接続詞を含んだ文の意味を言える	それぞれの接続詞の用法を理解している。

## 5 本時の指導について

### (1) 目標

- ・ I think that ～の表現を用いて自分の意見を英語で正しく言うことができる。 【表現】
- ・ 話し手が話した内容のメモを見て、英語に直して書くことができる。 【表現】
- ・ 話し手の意見を英語で聞いて正しく理解し、日本語でメモを取っている。 【理解】

### (2) 具体的評価規準

観点	A 十分満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を英語の正しい発音やイントネーションで明瞭に話すことができる。2文以上の英語で話している。</li> <li>・ 日本語のメモを見て速やかに英語に直すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に考えた意見の文を見ながらわからない発音を練習させ、話せるよう指導する。</li> <li>・ 活動終末のグループ内の教え合いで全員の文を完成させる。</li> </ul>
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手が話した内容を繰り返し聞くことなく一度で聞き取り、メモをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手に、段階を踏んで何度か意見を英語で繰り返すよう指導し、メモを取りやすいようにする。</li> </ul>

### (3) 指導の構想

「I think that ～」の文の土台となるのが1年生からの既習の文であることを意識させ、正しく用いていけるよう指導していく。また、「互いに関わりあう活動」として、自分の考えを持つ姿勢や他者の意見を聞く姿勢を指導しながらペアでの復習活動や3～4人の小グループでの意見交流の学習活動を行うことによって、本時の目標を達成していきたい。

(4) 展開

	学習内容	教師の働きかけ	○指導上の留意点 ●評価の方法・観点
導入 10分	1 Greeting 英語であいさつをする。 2 Warm up 1年～：一般動詞を使った表現の復習（単文の復習をペアで行う） 3 前時の復習：ピクチャーカードで確認する 4 議題の確認 5 学習課題の設定	2 時間を指定してスムーズに、アウトプットできるよう促す。 3 ピクチャーカードを見せて前回の基本文を言わせる。 4 議題に対する自分の意見を考えさせる。	●毎授業の反復で自分がどれだけスムーズに数多くアウトプットできたか確認させる。 ○全員の口が動いていること、声量を確認する
展開 40分	I think that ～を使って自分の意見を話し、相手の意見の内容を理解しよう		
	6 英作文 語群リストを参考にしながら自分の意見を英語にしてみる。 7 言語活動 順に議題に対する自分の意見を発表していく。メンバーの意見を日本語でメモする。《4人グループ》	6 英語にした意見をワークシートに書かせる 7 活動のルールを説明する。	○戸惑っている生徒に意見を聞いて英文を作る手助けをする。 ○話し手は2度同じことを言わせ2度目はゆっくりと話すように指導する。 ●【表現の能力】グループを回りながら発表の様子を確認する。 ●【理解の能力】ワークシートにメモが記入されているか確認する。
	8 英作文 取った日本語メモをもとに一番よい意見だと思ったメンバーの意見を英語に直す。できたら、ワークシートをメンバーで回して間違いを直す。（4人グループ）	8 前時配布の単語、文のリストを参考にさせながら文の組み立てを考えさせる。	○名前 <u>thinks that</u> ～になることに留意させる。 ○英文がわからないメンバーに話し手、本人が説明する。 ●ワークシートに書かれているか【表現の能力】
終結 5分	9 本時の振り返り 10 Greeting	9 本時の振り返りを、学習シートに記入させる。	